京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十三年 紀元二千五百七十年
本紙定價 一枚金二錢▲一ヶ月前金卅五錢▲三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲郵税一ヶ月十三錢
月曜日及び大祭日の翌日は休刊(日刊)
廣告料金 ▲五號活字十七字詰一行一回金五十錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人 高木久馬太
印刷人 松久神一郎
京城西署西小門通(電話六六三)
發行所 京城新報社

雜錄

內外瑣聞

京城瞥見錄(六) 一記者

(下)韓人農業家 由來京城の韓人は定職を有する者は甚だ少ないのである、地方の韓人は理由なくして彼等を養ふて居るのである、故に地方人は甚だしく是等の韓人を恐れて居る、が地方人と雖ども亦恐ろしき京城人を利用せではならぬ事が古來甚だ多いのである昔は地方官の裁判など自己に取りて甚だ不利益なる場合には、其の救濟の方法は京城に來て之れを謀する外は無かつたのである、而かも田舎漢が東西も分らぬ京城に上りて何事が出來るもので無い、泣けばとて叫べばとて其聲は客主の門より外へは聞へはせぬ、此に於て恐ろしき都人の援助を請ふ必要が起る、[illegible]の關係を受けて權官に紹介し、事件に依りては國王の御聞に迄で達してやつたものである、それが希望の通り落着すると否らざるとは事柄にも依りけりであつたであらうが、兎に角田舎人は此の方法に依りて救はれたものである、又地方人が何か有利なる事業を創始せんとするに際りても郡守や觀察使では埒が明かぬとすれば京城に出て來る必要を生ずる、其處で又都人の手引きを頼む、都人は爲めに生活の資料を得、といふ樣な狀態であつた、元來京城の住民は恒產あるものは極めて少數なる事は前日の本欄に記した通りである、決して悠遊徒食が出來る譯のものでない、然るに實際は之れをやつてゐるといふのは即ち前記の如き事件が有るからである、此の因襲は今も昔に變らざる勢を成してゐる、尤も今は地方官の不法に對する救濟といふ事は無いかもしれぬ、併しながら諸種の起業なり、金錢の貸借なり、地所賣買の如き事件は以前に比し其數を増したのは云ふ迄も無いことである、是等は皆都人の手を借る、地方人はアチラ、コチラ引張り廻はされ、事の成否に拘はらず酷い目に遭はされて突放されるのである。都人は此の外種々の狂言を書いては田舎本人に持込み、地方人を釣り寄せなぞして[illegible]を迎つてゐる、此の徒には身分高き者も甚だ多い、工は上下の隔て無しでは無く、農業に上下の隔て無いのは京城である。

宇宙の大變化

(ハレー彗星の影響)

ハレー彗星は我地球に近いて既に昨今は肉眼で觀望せらるゝに至つたがいよ／＼來る五月十九日には地球はこの彗星の尾の中を通過するさうで亞米利加などでは種々迷信的の集會が行はれて居るとのことだが尤も地球が彗星の尾の中を通過したことは一千八百六十一年六月三十日(我文久元年)にあつたさうで天象には多少の異變を現したけれども我地球の上には何事も起らずに無事に通過したのである▲であるから今回地球が彗星の尾の中に包圍せられたからとて別に心配するには及ばない▲所で天文學者の研究によると地球が彗星の中を通過するとしてどんな現象が起るかといふに、彗星の尾が高度に帶電せる微粒より成つて居るものとすると▲第一に無線電信の通信に影響を及ぼすべく又た普通通信電話の通信上にも變化が起るであらう▲それから注目すべきはビショップ環の現出でこれは先年クラカトア及びペレー火山の噴火の際太陽の周りにコロナのやうな形の赤褐色の環を見たがこれは火山から噴出する極めて細い物質が高層の大氣中に浮遊するために起つたものであるが▲彗星の尾は甚だ微小の物質から成立つて居るので地珠が其の中を通過するときには此の種の現象が起ることであらうそして太陽の光にも變化を生ずるであらう▲前記一千八百六十一年六月三十日には我が國には精密な記載なきも歐米天文學者の記錄によると日中空は黄色な極光狀の光で輝き太陽の光りは微弱となり夕刻に一時間ほど早く燭を點じたといふことでこの現象は今回も見ることが出來るであらう▲或はまた夕照のごとき現象が起るともいふ光雲と云ふ一種赫耀たる雲が現はるゝことも豫期せらるゝさうでその他この機會に於て極光及び黄道光等の觀測最も重要であると云つて居る▲尚彗星は肉眼でも觀望せらるゝけれども望遠鏡(普通の兩眼鏡にてよろし)を用うるのが便利で太陽の變化を觀るには日蝕の觀望の時のやうにガラスを煤か墨で塗つて不透明體として用るのが便利である

地方通信

▲平壤通信

●重要市場近況 當地以南附近の重要なる市場は由來穀物の產出を以て名ある黄州なるが同地は今回市場よりする輸送上の便宜を圖り去月鐵道管理局に於て南川里に達する支線を敷設したるが目下の狀況に就ては一般穀物輸送は少き方なるも今後七月頃に至れば盛んに麥類の輸出を見る筈なり黄州に次ぐものは中和市場なるが右は過日附近黑橋里に新市場の出來たる爲め販況を奪はれたるが如く唱ふるものあるも實際は著しき打擊は被り居らざる趣なり同市場に集散する附近の出產物は從來一種の習慣ありて一般に滊車の便を籍らず牛馬車に據るを常とせるが之亦昨今は一般に穀物の輸出は少なき由なり次は黑橋里なるが右は漸く去三月中に於て市場は開始せられたるものなるも地勢の宜しきを得たると從來同地には市場を設置せられざる可からざる資格と必要の有りたるにも不拘不便を忍び之を便利惡しき中和其他に據り居たるより自然の勢として開場後從來淺きも比較的盛なる輸送あり加之近く同地は各市場の開設鑛鑛採掘の擴張其他の事情の爲附近韓人の移住する者頗る多く日に增し賑ひを加へつゝあれば同く市場に於ても今後は著しき盛況を呈するに至るべしと云ふ

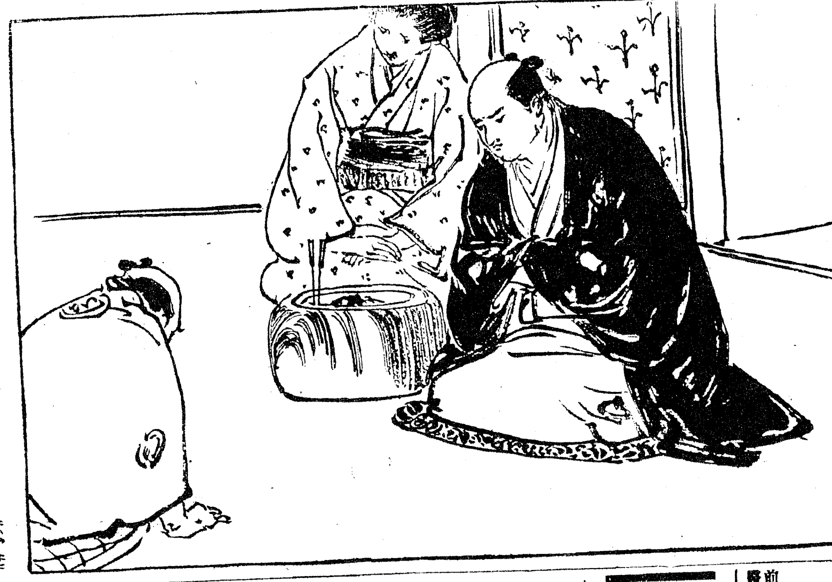
●岐陽江西道路實測● 平壤觀察道にては曾て平南間江西より岐陽に至る道路を開鑿すべく計畫ある事は既報の如くなるが右は愈々四日より實測に着手する事となり深田主事主として之を擔任する筈なりと云ふ

▲四月中の大貨物● 平壤驛に於て四月中取扱ひたる大貨物は發送に於て斤扱四十九萬七千百十五斤、噸扱一万二千四百四十噸、到着に於て斤扱五十六万四千〇二十三斤、噸扱五千九百六十七噸とし其の貨車收入總額は二萬〇七百五十二圓三十八錢なり到着の重なるものは煙草、木綿、紡績、金巾、雜貨等にして發送の重なるものは平壤炭、醬油、穀物、酒類、煙草等なるが是等は何れも特約割引にして平壤炭の如きは同月中に七千六百九十六噸を鑛業所在線より鎮南浦へ向け發送せりと云ふ

日本銘刀傳

第百七席 津田近江之守(十一) 邑井一講演

直助は思はず涙をハラ／＼と流しまして、言葉さへもれず／＼と 直「へー誠に／＼申譯がございません、私も實は一度伊勢參りがしたい／＼と思つて居りましたが、能い機會がございませんでしたので、二十歳になるまで愚圖々々して居りましたが、唯今れ使で酒を買ひに參りますと友達が二三人で伊勢參りをしやう、今立つと申しますので、急に私も往きたい氣になりまして夫れで急にれ暇を願つたわけでございます、 彌「是れ／＼餘りと言へば勝手なことを申すな、主人持の身体を以て自分勝手に暇を與れとは何事だ、是れが一季半季の奉公人ぢやアなし、小供の時から育てた我が兒同樣な者ぢやアないか、往く／＼は家の一軒も持たしてやらうと思つて居るのに、何だつて其樣な事を言ひ出したのだ、何か仔細があるに違ひない、さア正直に申せ、何處ぞの娘でも孕したのか、但し喧嘩でもして生命掛けで復讐に往かうとでも云ふのか 直「何う仕りまして其樣な譯ぢやアないんでございます、唯もう急に伊勢參りがしたくなつたのでございます、 彌「直馬鹿申せ、手前は氣が狂つたな、其樣恩知らずは一日も此の屋敷に置けぬ、から出て往けッ、此方から暇を遣はす、岡島は生來曲つた事が大嫌ひだから常に貧乏許り致して居る、其の爲め奉公人に迄馬鹿にされると思ふと腹が立つ、さア出て往け／＼」眥をキリ／＼と吊上げ唇をブル／＼ッと震はせてハツタと睨付ける 彌「直助能く考へて見るが好い、れ前は城下外れの八百屋の伜で親父と一所に始終靑物を持つてはれ屋敷へ出入して居たが、親父が急病で頓死としたので何うすることも出來ないと泣いて來たので旦那樣が御親切に八百屋風情の家までれ出でになつて近所の人を指圖して葬式まで出して下すつたではないか、勿体なくもれ勘定奉行の旦那樣が八百屋風情の家へ御自身れ出でになつて葬式萬端まで差して下すつたことでないか、夫れから家の諸道具を賣拂つて諸方の勘定をして、まだ若干かの不足があつたのを旦那樣が立替へて下すつた位、當に家の旦那樣はれ前に執つては天にも地にも、換へがたい大恩人、十一歳の小供で預る所のないれ前をば俺の宅へ來て居るが宜いと、御親切にれ連れ歸りになり我が子同樣にして下すつて手習にまで通はして、實に／＼手の届くだけのれ世話をして下すつたのをれ前忘れたのか恩知らずにも程がある、れ前のやうな者をこそ人非人と云ふのです、主人を馬鹿にするにも程がある 彌「イヤ／＼もう何も言ふな／＼、皆に何とも言ひやうのない奴だ、家來にまで侮られるといふのも、畢竟するに皆彌惣右衛門の不德の致す所だ、イヤもう左樣に心根の腐つた奴に居て貰ひたくない、其樣な者が此屋敷に居ると家の汚れだ、早く往つて貰ひたい 妻「デモ貴方餘り酷い、いぢやアありませんか 彌「是れ／＼もう何も申すな、言つた所で心の腐つた奴は仕方がない、彌惣右衛門も家來にまで侮られたかと思ふと心外で堪らぬけれど致方がない、コレれかぢ紙入を持つて來い」と妻方に紙入を取らせ 彌「さア是れは路用に持つて往け、是れは先代が勘定奉行をした者は賄賂を取つたり筆先きで誤魔化したりしてウンと金を溜め込んだ者だが、俺はさう云ふことは大嫌らひで一點の邪がないから何時も貧乏だに依つて澤山の金はやれぬ、此を持つて往け」直助は目に一杯涙を溜めて居たがホロ／＼と疊へ落し 直「では頂いて參ります、ア、殘念だ／＼ 彌「何が殘念だ 直「ハイ殘念なことがございます、では奥樣れ暇を戴きます。





東京電報

▲代議士の渡歐期

萬國議員會議參列の代議士尾崎、板倉、武藤、栗原、西村、近江谷、小川の諸氏は神戸に集合十四日神戸解纜の郵船會社平野丸にて出發の筈又自費渡航の錦里、小寺、鈴木、中村の諸氏も同船にて出發すべし(六日)

▲松花江の航行權

松花江航行權に關し駐清露國公使が清國政府に對し抗議を申込みたる問題に關し外務當局の言によれば思ふに昨年清國政府は北滿洲内地開放と同時に七月を以て稅關規則を發布し八月一日より三姓、愛琿、齊々哈爾の三箇所に稅關を開放したるが該規則中に露國以外の諸國の船舶に對しても松花江航行を認めたるもの〻如き意味の規定存するより露國政府は愛琿條約及伊犂條約に反するものなりとし抗議を申込みたるものなるべしと察せらる(同上)

▲眞野參列局長渡英

日英博覽會參列の眞野實業學務局長は十三日午后新橋發敦賀に赴き浦鹽より西比利亞線經由渡英の筈なるが滯英中各學會及び萬國教育會議に參列十一月下旬歸朝の豫定(同上)

▲手島校長の出發期

歐洲に差遣せらるべき東京高等工業學校長手島精一氏本月下旬出發印度洋を經て渡歐約六箇月間歐洲各國を視察し西比利亞線により十二月中旬歸朝の豫定(同上)

▲日本金融界の近況

去月末は三月以來國庫に徴收せられたる租稅未だ市場に放散せず且つ一般貨物の移動も色めき來りたるが爲め月末決算以外の資金の需用幾分増加しコールマネーは一錢二厘を唱へしも月を越して資金漸く回收し月末の日銀の民間貸出は二千三百萬圓に上り兌換券發行高二億九千六百万圓を示すに至れるが其後日々減少し四日には民間貸出千九百萬圓となり兌換券發行高二億八千五百万圓に減じ急に七百萬圓の減少を示すに至り(同上)

北京電報

▲日露新協約の說

當地在留外國人間に日本は滿洲に於ける地位に關し露國と新協約を結び同時に日韓合邦を發表すへしとの說盛に行はれつ〻あり(七日)

紐育電報

▲中米大地震の惨狀

中米(コスタリカ)大地震の爲め死者五百名を出し悲慘を極む(七日)

雜報

我陛下の御謝電

富美宮殿下の御婚儀に付韓皇より祝電を發せられたるを以て　天皇陛下は六日左の御謝電を發せられたり

朕の親愛する皇女の結婚に際し陛下は懇篤なる祝詞をよせられ歡喜に堪へず愛に朕は誠實なる謝意を致す

宮内府の大失態

宮内府官吏の沒分曉に就ては每度耳にせる處なるが現に去五日親耕式擧行に關し吾が統監府へも陪席を希望し來りたるを以て石塚長官は勸業的美擧を贊し快く承諾を與へ統監代理として列席すべきを以てしたり然るに其前日に到り同府の準備せる式場の席次書を見るに其席順に於て吾が統監席は親王皇族大臣の次ぎに設けあり流石温厚なる石塚長官も此無禮極まる配列に對し痛く憤怒する處ありて直ちに出席を拒絶し且つ宗主國の代理者に對する大義名分を辨別せざる彼れ當局の非禮を責め嚴重に將來を戒告せしに同府の狼狽一方ならず俄かに之を訂正して韓帝の左側皇族席の次に統監席を設らへ右側を親王席とし大臣席は其下とし漸く長官の納得を乞へり而して此配列は賤務課長多田桓氏の所業なるが彼等が宮廷深く隱れて宗主國の面目を傷けつ〻あるは蔽ふべからざるの事實にして這般の大失態は苟くも假借を要せず充分戒飭を加へ置くの必要ありと云ふ(電通)

滿洲の金融機關

久しく問題となり居りし滿洲の金融機關に關し今般大藏省より愈横濱正金銀行に命令を發したるが其要領左の如し

一、滿洲に特別金融機關を設置する代りに正金銀行をしてその任務に當らしむるものなるを以てその趣旨を以て日清貿易其他金融の圓滿を計る事

二、不動産抵當貸の範圍を擴張し又有望なる開發事業に對しては成るべく低利の放資を爲すべき事

三、爲替送金手數料は成るべく低減すべき事

四、固定資本の放資に關しては特別の機關を設定すべきこと

五、政府の必要と認めたる時は滿洲に支店又は出張所を設置すべきこと

等にして右に充當すべき資金は約三百万圓なるべきが各種の準備のため高橋頭取は近々渡滿する由

統監邸の晩餐會

石塚長官は八日午後七時より統監邸に渡清實業團近藤廉平氏等の一行及び趙農相閔東拓副總裁小宮俵次官松井菊池鈴木代理倉富大屋長官岡本局長代理大久保十時副官石井少將國分參與官吉原副總裁市原總裁三浦理事官榊原少將若林總監中山今村書記官前間本多島居條渡邊譯官岩井技師等を招待し晩餐會を開催さる〻筈なり

在滿州の日本人

二月末現在本邦人人口左の如し

關東州、男一萬八千三百七十三人、女一萬三千六百八十九人△滿鐵沿線附屬地男一万四千六十八人、女千六十四人△領事館管轄哈爾賓、齊々哈爾、新民屯、吉林を除く)男六千四百三十四人、女五千三百五十三人

●韓漁夫の得る利益

韓海に於ける日本人の漁業が年々發達する爲めに韓人漁夫は日本漁夫の利得する丈け反對に損失すると云ふ者あるも之れ未だ漁業の眞相を知らざる者の言なり日本漁夫が韓海に出漁する爲めに韓人の利益となる重なる點を擧れば

●第一、日本人が韓人より日用品を購買する金額は一箇年五十万圓を下らず而して韓人夫を雇傭する賃銀も亦一箇年三十萬圓以上に達す即ち合計八十万圓以上の金額は日本人の出漁する爲めに韓人が利益する譯けなり

●第二、韓漁夫が漁具、漁船の讓受、漁業方法の改良を爲して自然に發展するに至る即ち明治四十二年の韓人の漁獲高は之を明治三十九年に比すれば約三倍に達したるを見ると知るべきなり

●第三、以上の外直接間接に韓人が利得するのみならず漁獲物の販路擴張市場の擴張等に依りて得る利益亦頗る大なるものあるなり

●實業團の韓皇謁見

石塚總務長官は來る十日午前十一時三十分統監代理として石井武官を隨へ實業視察團員近藤廉平、大橋新太郎、大谷嘉兵衛、永井久一郎、土居通夫、瀧川辨三、鈴木宗兵衛、島津源藏の八氏を帶同し昌德宮に參内仁政殿に於て韓皇に謁見敬意を表する由

●管理局長權限擴張

鐵道院にては過般官制改正の結果本院内の二部を廢し各課の廢合を斷行したるが同時に管理局長の權限を大に擴張し工事、契約、出願、用地買收、雇員以下の任免等大抵の事項は之れを全部委任する事となり管理局長の權限三箇條五十五項を制定したり

●六十九聯隊軍旗祭

九日在龍山步兵第六十九聯隊に於て軍旗祭を擧行せらる〻由なるが當日は午前十時三十分兵營の前庭に軍旗を迎へ分列式を行ひ役重なる將校同相當官に午餐を饗し餘興としては兵士の相撲の外何等の催しも無く極めて質素に執行せらるべしと

●新任各主事へ訓示

今回任命せる道郡主事に對し九日松井次官代理澤田局長井上渡府郡課長武石會計課長の訓示あり同時に新任書記官の韓國事題に關する一場の講話ある筈なり因に既に着任せる主事は二十余名

●韓人主事と日本語

内部は今回各道郡主事五十名を増員し合計百名に達したるが是等日本人主事は孰れも韓語を解せざるを以て更に日語を解する韓人主事一名宛を配屬すと

●學士主事分屬見習

内部にては今回採用せる道郡主事中大學出身八名あるが右諸氏は當分内部各局課に分屬せしめて實地行政事務を見習はしめ然る後地方へ派遣すべしと

●赤十字社臨時總會

日本赤十字社京城支部にては本社常議員石黒男爵の入京を機とし來十八日午后倭城俱樂部大運動場(總務長官々舍後庭)に於て臨時總會を開催する由

●愛國婦人總會參列

九日日比谷公園に開催せらる〻本會第九回總會には目下在京中の韓國本部副長兒玉伯爵夫人代表者として參列す

●小學校の野遊會

京城各小學校に於ては例年秋季淸澄の候を運動會と定め春陽駘蕩の春季を野遊會と定め數育的一日の淸遊を試むる例なるが今日曜日の好晴をトし第二小學校は職員兒童に幼稚園迄も加へ西門外に出遊せり尚ほ第一小學は次週の火曜日と内定の由なるが第三小學は前週土曜日に於て奬忠壇に催されたりしと云ふ

●吉村社長の招宴

業務視察の爲め目下來城中なる内國通運會社々長吉村甚兵衛氏は來る九日午後四時より當地各新聞社長を搦翠樓に招宴する由なり

●矢野課長の巡視

通信管理局業務課長矢野義二郎氏は通信事務視察及び地形調査として鳥山、稷山金鑛、全義、振威、廣州等へ出張する筈なりと云ふ

●松田技師の着任

新義州、定州方面の保線長たりし松田一雄氏は今回龍山保線所詰を命ぜられ七日着任したり

●大橋主幹の出張

赤十字社大橋主幹は石黒男來韓各支部大會臨場打合せと出迎へを兼不日新義州迄出張する由

●山田技師の着任

鴨綠江架橋工事の主任技師たりし山田鑑雄氏は今回龍山本廳詰を命ぜられ七日着任したり

●小倉主計監歸任

西鮮に出張せし小倉主計監は去る六日夜歸任したりと

●安東稅關長入京

安東縣稅關長ヘーレン氏は七日西大門着列車にて入京

釜山民團債に就て

釜山民團債借換に就ては釜山理事者は先頃よりサミュル商會に賴つて外資の利用を計らんとしたるものなるが外資の輸入に就ては我大藏省に一定の方針あり此方針に副はざるものは到底統監府の認可を得る能はざるを以て釜山理事者も昨今に至つて翻然として悟り外資計畫を斷念し借換債券發行の議を韓國銀行に依賴したる由にて韓銀の盡力次第にては年利五朱半若しくは六朱位にて成効するならんと云ふ、尙數日前の京城日報に外資成立などの記事見へしもそは全く基礎なき虛報にして信ずべきものに非ずと云ふ

商工調査の目的

農商工部に於て今回開始せる韓國商工調査は既に準備整頓し主査伊藤事務官は七日慶尚地方へ向つて出發せり元來韓國は農業本位の狀態に在るも一方商

經濟小言

▲桂侯の四分利公債借換に就ては世間兎角の評ありしも危げながら先は成効せし樣なり、之に因つて世の財政家は擧つて四分利を標準とし五分を普通、六分を格外とす、東洋の債務國將さに進境を示す。

▲桂侯今や借換に成効し謳歌の中心となる、而かも其借換に因つて國庫の助かるところ一ヶ年千七八百萬圓に過ぎず、借換に就ての間接の利益は別とし直接の利益は如上の金額に過ぎず。

▲日韓合併を遂行せば其第一期五年間は國庫の負擔少なくも年額四千萬圓を要せん(此四千萬圓に就て聞かんと欲する人あらば記者は何時にても明細に答へん)四千萬圓は前項一千七八百万圓の數に非ず、桂侯に合併を迫るものは四千万圓を調達するを要す。

▲頑者韓政府近狀に鑑みて國債の借換を爲さんとすと、之れ大に可なり、只現在に於て韓國債證券が市場に於ける流通證券たらざるを如何にすべき。

▲韓國債償却の義務は早晩帝國政府の果すべきものなり、否果さざらんとするも能はざるものなり、さる理由あるに於ては帝國政府は寧ろ今日に於て韓債券に裏書すべきものなり、而り裏書して流通證券たるの生命を附すべきものあり。

▲釜山民團の無謀なる外資輸入計畫は記者の豫想の如く立消となれり、されど賀すべきことは新借換の有望なることとなり、由來財政の事は專門家に因つて決す、釜山民團理事者の外資計畫元々素人考に起る、其不首行に了るや是非なし。

工業方面を顧みれば萎微衰頽甚しきを極む則ち商工業に要する諸材料は悉く農家の製産に仰ぎ農業の發達は商工業の振興と相待つの必要ありて彼是苟くも輕重あるべからず故に此際農産方面の奬勵と共に商工方面の調査を施行せんと計畫せる所以なるが韓國には自ら韓國特有の慣行あるを以て之を精細に洞察し年九回位調査の結果を報告し完成の上は更に一卷の冊子として公表せん筈なりと尙は其調査の主任官として經驗ある伊藤事務官を命じ別に地方に囑託を置き元山は德山商業會議所書記長を木浦は中田同書記長を任命し各其所在地を中心として調査せしめ其連絡統一を期する由なり

東洋拓殖の計算書

東拓會社第二回の損益計算書並に利益分配案左の如し

總益金	六八一、四〇七、二一七
内	
補給金	三三〇、〇〇〇、〇〇〇
定期償還貸付金利息	七、一三九、六二〇
當座預ケ金利息	三一、二四八、二八六
定期預ケ金利息	六二、〇〇五、〇〇〇
通知預ケ金利息	一〇、五五七、七九〇
割引步合	六、五一〇、〇〇〇
株券書換手數料	五〇七、二〇〇
小作料收入	一二四、六七三、五四七
前期繰越金	三三、四四四、六六四
合計	一〇二一、三二一、一三六
總損失	六六一、四〇七、二一七
内	
給料	二六〇、七〇〇、一五六
報酬	六六三、三五七、八八〇
旅費	三三、一六四、四九〇
營業費	一八、六九四、八七〇
營繕費	一三六、五四〇
出張所費	一五六、三五三、八八六
派遣費	九、〇九一、四九〇
利益金	四〇〇、七〇七、〇六一
合計	六六一、四〇七、二一七

利益金分配案

一金四十萬七百七圓六錢一厘　利益金

内

金三萬二千百圓　缺損補塡準備金
金八千百圓　配當平均準備金
金二萬圓　役員賞與及交際費
金十五萬圓(年六步)　株主配當金
金十九萬五百七圓六錢一厘　後期繰越金

南大門内の通行

南大門内は昨年來通行を禁じ門の兩側に新道路を作りたるも右側勵行の爲め交通不便を感じつ〻ありしが今回三浦理事官より度支部に交涉したる結果徒手步行者のみは近日中より門内を解放し通行を許さるべしと

●龍山居留民會延期

六日午後七時より開會の豫定なりし龍山民會は都合に依り延期昨七日午後一時より開會されたり右延期の理由として傳ふる處に依れば去五日の夜議員竹内卷太郎渡邊與三郎の兩氏は民會に出席の歸途鐵道官舍附近に於て何者にか毆打され負傷したる爲め夜間の開會を危險なりとせる爲めならんさいふ因に竹内氏が重傷を負ひし如く傳ふるものあるも氏は被害の翌日自身日之出新聞社に出頭し當時の狀況を詳細に陳述したりと云ふを以て見れば太した怪我にも有らざるべく渡邊氏は頭部を一擦されて擦過傷を負へるのみなりと

●大屋局長の園遊會

大屋鐵道管理局長は豫報の如く八日午後二時より大久保大將石塚長官各大臣其他文武官民千餘名を南大門驛前の小丘に招待し園遊會を開く筈

●渡淸觀光團員宿舍

八日入京する實業團の宿舍左の如し

近藤廉平(天眞)大谷嘉兵衛(巴城)
土居通夫(巴城)大橋新太郎(天眞)
瀧川辨三(同上)鈴木宗兵衛(巴城)
永井久一郎(天眞)島津源藏(同上)

●四月中の貿易概況

四月中に於ける韓國貿易輸出は百八十一万二千三百圓にして同輸入は二百九十九萬五十五圓なり(關稅局の調査)

●松永師團長披露宴

松永第二師團長は七日正午より文武官の重なる者十余名を京城ホテルに招待し着任披露の宴を張りたりと云ふ

●明石參謀長の消息

上京中なる軍參謀長明石少將は來る十五日東京出發十八日歸任の豫定なる旨軍司令官の許に電報ありたりと云ふ

●石川安次郎氏來京

報知新聞北京特派員牛山石川安次郎氏は渡淸實業團歡迎の爲七日午后六時京義線より來京アストルハウスに投せり

●宇佐川總裁等東上

七日午前九時宇佐川東拓總裁一行四名は南大門發列車にて東上したり

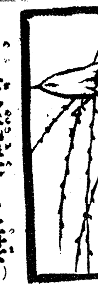
間島韓民の窮迫

……淸國官憲の苛稅誅求……

最近間島より歸來せる某氏は間地の近狀に關し案を打つて語つて曰く憲兵撤退後は多少明治四十年以前の狀態に戻るなきやを顧念せしに果せる哉樓内傑滿洞附近及呀呀河左岸羅不溝地方には時々馬賊体の强盜出沒し近くは本月初め新奥坪韓人旅舍に於て韓國商人等四名は持參金數百圓を携帶して宿泊せるを滿人强盜の爲めに嗅ぎ付けられ三名は慘殺せられ一名は重傷を負はされたる珍事を引起したり我が統監府出張所駐剳當時は官兵の暴行以外普通賊徒の橫行は殆んど絶無なりしに現今は斯の如く頗る危險の狀態に在り其後奥督辦去り淸兵撤退し諸事全く制度を改め一事件の交涉に就ても其回答を得るには少くとも一箇月以上を要する有樣となり不便言ふべからず只々比較的新知識に富み溫健の思想を有せる知府陶彬の在るありて稍々心を强ふするのみ尙は彼等は一意自國の利權を侵害されんを懸念するもの〻如く現に領事館所在の龍井村に於てすら兒戯に類する行動を演じ實に噴笑に堪へざるものあり其他全般に涉りて經費不足の名の下に煩多極まる稅則を設け就中鹽を官營とし其取締飽迄嚴酷にして韓人は在來より二倍高の官鹽を需求せざるべからざる不幸を背めつ〻あり尤も此事に就ては吾が官憲より淸國官憲の反省を促がし低價主義を執るべく强硬抗議中なるも之を解決すべき責任官吏は陶知府に非ずして遠く渾春道臺の管轄に屬せる爲め交涉遲々として進行せず[illegible]執拗苛稅の轍に堪へざるものあり然[illegible]も拘はらず玆に不思議の現象を呈しつ〻あるは昨年十一月以來現今に至るまで咸北地方の韓民續々移住し來り實に豫想外にして優に三千を超ゑんとすべし昨今も尙は盛んに移住を繼續し居れり而して彼等移住民は主もに布爾巴通河以北に向ふもの〻如くなるが一方淸國山東移民は殆んど皆無の狀態に在り淸國官憲は此現象を目擊して遠からず小韓國を形成するならんと[illegible]の体なる趣き聞知せり宜べなり[illegible]步當時の韓人在住總數は約八万三千なりしに旣に九萬二千に達し來年に到らば正さに十萬を算するに到るべければなり要するに間島と北韓との貿易的關係は彼は粟を供給し此は鹽を送り物々交換的に相互の生活を助けつ〻あるに韓民に對する淸國官憲の苛稅誅求は斯の如く綫路を編む特に一般の治安狀態は旣に破壞し去られて賊徒隨所に橫行する此有樣を以て推移せば間島問題は再び日淸兩國葛藤の因を成すに到らん識者は以て這般の消息に注意を怠るべからず

▲治外法權▼

▲近藤廉平君以下の滿韓實業團が愈々入城する、記者は誠意を以て一行を歡迎する、ドウカ滯在中異邦の觀察を願いたいものだ▲一行中には曾て滿韓利源調査委員として見ねた人もザッツ居る、併し今度の使命は利源の調査でなく淸國に就ては觀光と觀変の爲だソウだ、シテ見ると着眼も心得も以前とは全く違はねばならぬ、如何に鐘口がコロガッテ居ても高揚枝で濟まして居らねばならぬ、苦しかみうが是非御辛抱を願む▲追々暑さに向つて來る、例年の如く食用の氷が澤山要る、之迄使つて來た漢江や何かの天然氷は汚物が交つて衛生に害だ夏季傳染病の媒介は天然氷だ、ドウか其筋の注意があつて欲しい▲傳染病と云へば去年コレラの時見ねた山根とか云ふ藪醫が内部衛生顧問とか云ふ肩書を有つてまたまたやつて來た、之は當地の刀圭者を侮辱したものだ、アンナ射間醫者は匆々たゝき出して仕舞ふが良い▲地方新聞中の白眉鎭南浦新聞は滿洲視察團の會員を募つて居る、之れは近頃有益の企だ、ドウカ大々的に成効さしたいものだ▲身銀行業に從事しながら計算を知つて居るものとては中々無い、今度鎭南浦から韓銀本店の營業課長に轉じた橫山君などはまづ計算を知つて居る方だ、併し計算許りでは營業は出來ぬ、橫山君たるもの留意一番を要する▲曾禰統監の荷物が新聞の上で內地から來たり、亦歸つたりした[illegible]物迄が主人を眞似て宙宇に迷つて居る



名妓洗髪の乱れ妻(三)

▽二人の身代りに車夫の國
▽木梅が顫へ上つての懺悔

年は忘れて了ひましたが、何んでもヂリくと殘暑の嚴しい頃でしたから、九月の末頃でしたかね、市村が芝居へ行くのですが宇田ともう離れて居るのが辛いと思ふのは、私一人ぢやない、兩人共なんですからね、せめて此心意氣を汲つて遣き、今を後での忍ぶ草、あんな若い時もあつたねと、腰掛出して見るのも思ひ出で、寫眞屋の森山を呼びにやり、日吉町の森の家の門口で市村が俥の上で手を延ばしてゐると、私は泥除に片手をかけ、市村の手先を固く握り車夫の卯顧が梶を持上げる處を寫さしましたがね、市村が[illegible]を掛ける年まで、[illegible]あつたと思ふのが、わ互の類優でしたね、夫んな工合に暮してゐるのですから、末が思ひやられますわ[illegible]

痴話く

世間も知つたものないのですから、[illegible]手の附やうがない、[illegible]ました時、市村の宅にも[illegible]

板橋

[illegible]

満願の夜

[illegible]

榎橡

[illegible]

……猫板の上に、別にして縁切茶を乗せてあつたのですが、私等がれ母さんと三人で裏に建てゝゐる家を見に行つてゐる間に、車夫の國が夫んな事とは知らず嗝付けた勢で、ツイ其茶を飲んで了つたので、私等は其ましなくて了つたのですが不思議な其夜何の事もないに國が姿を消して了つたので、私に懺悔をしますのかと思ふと、[illegible]に茶を捧らへました

韓女の背夫改嫁

▽憲兵補助員の周旋

京城龍山[illegible]郡内東灘里朴姓女(二三)は[illegible]金元俊なる者の妻として家内不和合なるより、[illegible]李聖完に出[illegible]事情を語りよき改嫁口あるから、何ぞ[illegible]李聖完は……

猫の子

……

途中 憲兵補助員 李原文外二名

……

勸誘

……

寡婦詐り

……

懲役二年半

……李聖完は二年に……はサテモ……

韓官吏の窃盗

▽筆洞分遣所の大活動

……大和町若草町櫻井町本町……の住宅にして盗難届及……普通の捜索……所員一同極力苦心探……は韓人兩班紳士にして……龍山に紳士向き……

……の家を構へ京城南部山林洞李允昭(十七)を手先きに使ひ大和町若草町櫻井町等の各所に侵入窃盗を働かしめ贓物は全部入質せし額は莫大なるが其の詳細は取調番に属するを以て後日詳報す可きが筆洞分遣所に於ては憲兵六名和服を着し七日龍山なる彼れの家宅を捜索し犯人を引致せりと云ふ

鬼の如な叔父さん

▽肉身の姪まで食ふ

當地における料理屋飲食店主が名を酌婦に藉りて此れを色魔が枕席に侍らし不當の利得を貪り居るは事新らしく云ふ丈け野暮の骨頂なるが茲に太平町二丁目のこの葉亭主立川かなの内縁の夫山下某は現在肉身の姪なる長崎縣平民塚本きみ(十九)を渡韓すれば下女奉公しても月に十五六圓にはなる嫁入仕度などは一二年間に立派に出來る三年も居れば千圓近くの貯金は請合ひ現在此の叔父さんが云ふてとなれば間違ひはないと餅で頬邊をたゝく様な甘い言を並べ連れ來りたるは昨年十月頃の事なりしが其の當座は或る所へ下女奉公をさせ置きしが今日此の頃の不景氣に眞面目な事ばかりして居られるものか一つたきみを食ひ物とし不景氣を挽回せんと帳場に座つて居て呉れさへすれば宜いからとて先方から暇を取らせ頻りに淫賣を迫りつゝあるのみかれきみが奉公中貰つた給金の幾分を國元へ送金方委託したる四十圓余を費消し居たることも此の程に至りきみの知る所となりしも何分叔父と云ふを嵩に着て押へつけて居るとは鬼の如な叔父さんなり

仁川の博徒狩り

仁川港仲町一丁目原合旅館止宿廣島生れの高田源之助(四八)同濱町二丁目同縣生れ船崎みつゑ(三七)同濱町一丁目同縣生れの松岡米吉(三〇)同町同縣生れの中田寅助(六六)の四名は平素賭博を常業となし界隈にて評判惡しき代者なりしが一昨五日午後三時頃前記松岡米吉方にて車座となり長崎花と稱する賭博を開張せる現場に仁川署より刑事係出張して四名を珠數繋ぎとなし本署へ引致の上取調中なるが近來又もや仁川に於ては之れが賭博の流行せんとする模様あるより其筋に於ては假借せず續々檢擧すべき方針なりと云ふ

日本婦人の体面

仁川京町二丁目飲食店和田方前にて五日午後九時頃本洞居住の宋萬峯(二〇)と云ふが屋内を覗き込み人三化七と酌婦を見て冷笑ひたるを同樓の酌婦小川サク(二〇)と云ふが認め恪は日本婦人の體面を汚せしものなりとて怒り出し矢庭に屋外に飛出して件の韓人の衣類を引裂き剰へ韓……

……八の面部に負傷せしめしより警官出張サクより藥代を支拂せしめて事濟み

金融組合の小僧

廣島縣生れの長尾正八(十八)と云ふは五日午後十時頃京城より仁川驛に着し支那町なる菊屋旅館に官吏と自稱して宿泊せしが擧動不審なる點あるより仁川署刑事は殿重に同人を取調べたるに果れは京城太平町一丁目佐藤政平の組織せる金融組合に雇はれ中集金先より金百圓を拐……



女振り

片山貞松氏夫人
片山ごも子

片山貞松氏は五位の工學士で内部土木局調査課技師奏任官一等一級である氏の原籍は現在は北海道にあるが産地は熊本縣である、何う云ふ事情で左様なのかは女振り子は知らぬ、扨て夫人の產地は東京牛込で幹枝が戌れ住居は大和町二丁目である、明治寅の五黄納音が城頭の土とある明治十一年の生れで本年は恰も三十三の厄年に相當する、抑も貞松氏ともと子夫人との今日あるは既往を辿ると随分面白いこともある、赤城の杜の月下に江戸川畔花下の逍遥に、僕が學校を出たらばね、妾は夫れを樂みに、もとさん乾度待てゝ呉れるだらうね、疑ひ深いのね貴郎も、と如な蜜の如な私語に醉ふた事もある相思の間であつた、此樣縁は何うかするど多くは失敗するものであるが二人の夫れは成功した、此の光榮ある歴史を有する家庭に波風の起らう筈がない極めて圓滿である、れ子さんは十三の嬢さんを頭に四人ある、二番目のれ子さんが男だ、此所に殘念なことは此の嬢ちやん達が普通一般でないヤンチヤであるのに加へても子夫人が非常な子煩悶であるのでど女中達が居付かない、是れではならぬと態々東京から女中をれ伴れになるが夫れでも駄目だ、一つは夫人が察々の明があり過ぎて自ら用ゆること多きにも因ると云ふ者がある、此れ以上は説明の限りでない。

藝妓愛吉の逃走

大邱にて名高き料理屋達城館の藝妓愛吉事川下さよ(二一)は五月一日夜より逃走行衛不明に付寫眞を添へ捜索願を北部署へ差出したりしが逃走し日本へ高飛びせんとする處なりしにぞ小僧とて容赦はならず直に檢事局に廻はし……

● 仁川小學校運動會

仁川民團立小學校の運動會は既報の如く八日午前九時より觀測所下運動場に於て開催せらるゝ筈なるが右は市民一般の行樂日とも見做し居るものなれば例年の如く盛觀を呈するなるべし殊に當日は婦人會は同運動場に於て風揚會を催す由なれば相待つて見物ならん

● 拾得

仁川寺町一丁目菅井榮助方の下女畑りきは五日同町にて一圓を拾得屆出づ

神と佛

▲ 龍山本願寺追弔會　龍山元町なる同寺に於ては遠大の望を抱き懐かしき母國を離れ渡韓し不幸病魔に侵され龍山にて死亡せし人々の爲めに七日より十日迄毎日午後二時午後七時半の二回説教並に三部妙典を巡讀し春季追弔法會修行せらるゝ由にて遺族は勿論一般信者の参詣を希望すと云ふ

▲ 京城日本基督教會　旭町四丁目なる同教會にては八日午前九時より日曜學校午前十時より禮拜説教「向上の道」青年會幹事丹羽清次郎氏あり午後八時より傳道説教「心の清き者は福なり」石原牧師等あり一般の参聽を希望すと

▲ 京城基督教會　日の出町の同教會にては八日午前十時より禮拜同牧師の「山頂の靈光」あり同説教後直に南山公園にて教會員の春期親睦會を催す都合に付き同夜の集會は休會すと

目と耳

▲ 歌伎舞座　本村一座八日の替り狂言は江見水蔭作「女漁師」全七幕にして重なる配役は左の如し
柳田たき(君子)水野尾玉枝(洋華)と ら(静子)もん(豊子)柳田いそ(石井)幸六(千葉)車夫(千代田)惡變れ熊(渡邊)下女(岡村)三吉　高田トラ(村山)東浦秋作(内田)車夫(奥山)水夫(楠)野々井光雄(福澤)阿久津(富士井)嘗生(小出)三木田金之助　榎本)漁夫網五郎(寺田)水夫(東)儀兵衛(三好)島子(白石)水夫(廣瀬)三木田俊郎(桃井)黒川太郎(木村)
尚ほ九日(月曜日)の藝題は田口掬汀作「女夫波」全七幕にして其の配役如左
植村俊子(君子)日頭文子(洋華)多津子 静子)くに(豊子)日頭夫八(石井)下女(千葉)女中(千代田)番太(渡邊)下女 岡村)女中(高田)丸山(村山)植村融(内田)女中(奥山 せん(楠)植村時子(福澤)杉原(富士井)下女(小出)橋見英夫(榎本)鷹峯須造(寺田)楠山新吉(東)料串(三好)高山貫一(廣瀬)日頭武則(桃井)橋見老八(木村)

▲ 壽座　八日の替狂言は一番目「源平布引瀧」二幕、中幕「白石噺揚屋の場」二番目「安達ケ原」四、五なり

木村一座藝風(四)

▲ 一對の女優　一座の花

木村一座は男女合併劇とでも云はふか女形の方は殆ど女優で占領して居る、云ふ迄も無く野村君子は立女形で次が澤井洋華である、此澤井と云ふ女優は近頃珍らしき腕達者である、何んでも俳優になつたのは君子より一年程古いさうだ、容姿の優美なる點は君子に一歩を讓らざるを得ないが舞臺の働きは決して劣れりとは見へず、芝居氣が少なく極めて自然的になつて居る、八の親のれ種坏は僅かに能く働いた總体を引括るめて最上の出來であつた、君子の深刻、洋華の輕妙は好一對にして實に一座の花である、其他男優では木村に續く者は例の寺田健一と新來の内田吾郎とである、兩優共体格も大きく調子もキビくし、それに臭味の少ない純正劇役者に出來て居る、今兩者を對比せば内田の藝は中々達者にして器用もあるが稍々輕躁の嫌ひあり、寺田は至つて不器用だが其代りアツサリとして見た眼に嫌味がない、併し兩優共ア丿体格と調子を持ちながら敵役として氣の毒ながら未だく前途遼遠だ、併し向上の餘地は歴々たるものがある折角研究あらん事を望む、次ぎに古顔の桃井文夫優は聊か退歩せし感あり妻君にれ株を奪はれたのか、木村の腰巾着榎本武夫は段々達者になつて來たがドウ云ふ者か今に臺辭が板に付かぬ、丁度下手な歌唄ひが三味の糸に乗らぬと同じで之は仕方がない、此外評すべき新顔連も澤山あれどそは劇評の時にゆづらん、要するに木村一座は所謂木村式を發揮して斯界に一藝風を立て居る處が豪らいのだ。(もの字)

今日の運勢

五月八日舊三月廿八日赤口 陷害又一白癸酉定　一白は妄言に羅り易し旅行出帆及新事見合すべし△二黒不振の日なり新事及談判用談婚姻養子共同協力の事凶△三碧　好望の日なり新事及紛糾事解決に適す盗失及散財防ぐべし△四緑　顕進の日入學門創業開店組合相談等見込あり△五黄不振の日新事控へ目の事紛爭盗難遺失防ぐべし△六白　收利若くは援助を得る日衝突爭論避くべし△七赤　快欣なり大抵吉家庭又は近親の事に煩累あらん△八白　離縁、延滞多し賣買貸借金品授受間違起り易し紛失盗害の恐れあり△九紫　不得要領に了らん計畫豫備約等に吉開店業見合せの事

五月九日二黒先勝甲戌執△二白　衰退の運なり新事日合せの事保證受印を禁ず△二黒　人の爲め己の利益を沒却さるゝあり受印酒色の害を戒しむ△三碧　沒要領の日也創業開店模様方針替整理改革事凶遺失防ぐべし△四緑　金品授受證券及使用人見女に煩悶ある提言要求に遭ふあり△五黄　情義に驅られ損害煩累あり尙家族從者の上に煩勞あり△六白　快欣の日なり大概吉殊に礦業農業に尤も吉△七赤　利得多き日なり婚姻養子共同組合連帶に忌む子孫の事を謀るに尤も妙△八白　人より利益を受けん整理改革に適する日とす△九紫生氣日なり好し大抵吉殊に棲見依頼嘱託婚姻養子の訂約に妙(本町五丁目三一館判斷)

● 取消

拜啓去る三日發行貴新聞第三面欄内に「洗濯屋の心の洗濯」と題する記事中坂洗濯屋云々は當方には斯る事故無之是は南山町三丁目二十番地原金洗濯屋の間違と存候間右全文を掲げ御取消し被下度願上候 南山町三丁目五十七番戸阪洗濯店 京城新報社御中

